

界に至る。其村まで九町、西二町二十八間中荒井村の境に至る。其村まで四町、南二町三間、本郡橋爪組下米塚村の界に至る。其村は巳午に当り十町十間余、北四町十間蟹川村の境に至る。其村は亥に当り六町三十間余、又辰の方六町、高久組幕内村の界に至る。其村まで十三町四十間余。

○山川 鶴沼川、俗に大川と云、下同、村東にあり、幕内村の境内より来り、北に流ること十一町五十間余、蟹川村の境内に入る。

○関梁 船渡場 村東にて鶴沼川を渡し、府下に通る道なり。

○粟善 善兵エ 此村の肝煎なり。一歳鶴沼川洪水し、川除土手破れ、下米塚村端村出新田の民居次第にかけいらんとす。村民皆地高き処に集り二、三日及ぶ。水かさ弥々増り、舟も通わず、食物もなければ、皆々飢いのぞむ。善兵エ食物を携え漲る流れを押渡り、飢人をすくい、又近村の渡舟を得て、人馬共に下小松村に引取りけり。宝曆八年（一七五八）錢を与て賞せり。

三 東 麻 生 村

1、多賀神社の由来と村の発達 寛文五年（一六六五）、貞享二年（一六八五）の書上げにも、文化六年（一八〇九）の風土記にも多賀神社の名はみえず感應神社とある。村南二町三十間にあるが、今度の構造改善で村中に移転してくるとて、境内の樹木は伐払ってしまった。もともとは村端れにあつたともいい、おいせの宮という字名がついていて、下肥をかけない忌地となっている。もともと大神宮即ちおいせ様がここにあつて、感應神社に併祀したともいっているが、伝承だけで確認は容易でない。

下小松の感應神社を多賀神社と改めたように、村人も小松の多賀神社と同じだといっている。村の発達と共に関連性があるかも知れない。